

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, October, 2008

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

10月の状況 (佐藤)

☆ P/2008 T3 = 1892 T1 (Barnard-Boattini)

10月7.22日(UT)、Catalina スカイサーベイの0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た天の川の濃い領域の画像から Andrea Boattini によって彗星が発見され IAUC 8993 に掲載された(9日02:15 JST)。その約1時間後(03:21 JST)、Maik Meyer (Limburg, ドイツ)は、海外の彗星観測者メーリングリスト(comets-ml)でP/2008 T3 (Boattini)が、長い期間見失われていた彗星D/1892 T1 (Barnard)であることを示唆した。

Gareth V. Williams (Smithsonian 天体物理天文台)は、1892年の文献から41個の精測位置を集め分析のためそれらを再修正した。Williams と中野主一氏(洲本市)による軌道計算の結果、同定が確かめられた。中野氏によると、1892年から2008年まで20公転し、1922年10月、1934年8月、2005年8月に、約0.3-0.4 AUまで木星に接近したとのこと。(IAUC 8995)

10月12日、筆者からOAA彗星課メーリングリスト(以下oaa-comet ML)に「Williamsの軌道要素(IAUC 8995)をWinOrsaで見ると、木星には2017年7月におよそ0.13 AUと更に近づき、周期も現状の5.7年から6.5年と当初発見の1892年頃の周期に戻るようです。」とコメントした。

☆ P/2008 T5 = 2001 J1 (NEAT)

10月15.78日(UT)、門田健一氏(埼玉県上尾市)によってP/2001 J1 (NEAT)が検出された。CCD全光度は16.4等であった。

10月19日、oaa-comet MLに門田氏から「…3夜の観測が連結されて、回帰は間違いないですね。ΔT=-0.5 dayの搜索フレームから見つけました。予報より視野1つ分(30分角ほど)外れた位置でしたが、バリエーション上に居たこと、そして2夜のモーションが一致したことから、目当ての彗星であると断定して、Oct. 15, 17の観測を報告しました。昨夜も晴れたので、3夜目を観測しました。実は、Oct. 11にも向けたのですが、この日の撮像はΔT=±0.0 day だけでしたので、視野外で

した。運良く晴天が続き、月明かりに負けない明るさでしたので、自力で確認ができました。」と検出時の観測状況コメントがあった。

IAUC 8996 によると、安部裕史氏(島根県松江市八束町)によって確認観測がされた。MPC 54170 の予報に対する近日点の修正値は、Delta(T) = -0.6 day であった。

○ 眼視観測報告

C/2006 OF₂ (Broughton) (写真 a)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	1.69	11.2	4.0'	6	-	-	4/5	4/5	78×32cmL	張替 憲	
	4.71	11.2	4.0	6	-	-	4/5	3/5	78×32cmL	張替 憲	
	4.74	11.3	1.5	5/	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	
	30.70	10.7	2.5	6	-	-	4/5	3/5	78×32cmL	張替 憲	

C/2006 W3 (Christensen)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	4.51	10.8	1.6'	6	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	
	11.76	10.8	3.0	6	-	-	4/5	2/5	49×32cmL	張替 憲	
	30.69	10.9	2.0	6	-	-	4/5	3/5	78×32cmL	張替 憲	

C/2007 N3 (Lulin)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	1.44	9.0	2'	5	-	-	4/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	

C/2007 W1 (Boattini)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	4.45	12.4	1.5'	2/	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	

C/2008 A1 (McNaught)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	9.41	7.5	4'	4	-	-	2/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	

C/2008 J1 (Boattini)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	4.44	12.1	1.5'	3	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	

6P/d' Arrest

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	1.46	8.8	4'	6	-	-	4/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	16.41	7.6	3	6	-	-	5/5	2/5	25×15cmB	宇都宮章吾	月明り

29P/Schwassmann-Wachmann (写真 b)

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	4.76	10.4	2.2'	2	-	-	-	-	75×40cmL	吉田誠一	

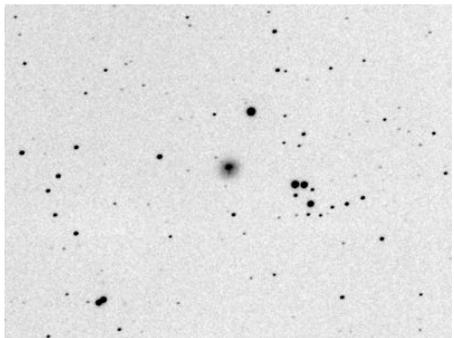
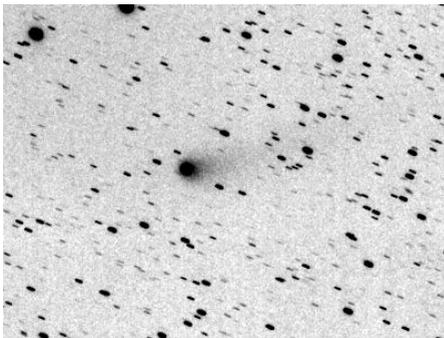
205P/Giacobini

2008	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Oct.	4.42	12.6	1.2'	3/	-	-	-	-	144×40cmL	吉田誠一	

○10 月中に発見されたその他の彗星

- ☆ P/2008 T1 (Boattini) 10 月 1.35 日 UT、A. Boattini は、Mt. Lemmon サーベイの 1.5-m 反射望遠鏡で得た画像から 18.0 等の彗星を発見した。約 10" のコマと約 60" の扇状の尾があった。(IAUC 8988, 2008 Oct. 2)
- ☆ C/2008 T2 (Cardinal) 10 月 1.16 日 UT、Rob D. Cardinal (Rothney 天体物理天文台, Calgary 大学) は、Priddis にある 0.50-m f/1.0 反射望遠鏡から 16.0 等の小惑星状天体を発見した。NEO Confirmation Page に掲載され、幾人かの CCD 位置観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 8993, 2008 Oct. 8)
- ☆ P/2008 T4 (Hill) 10 月 8.39 日 UT、R. E. Hill は、Catalina スカイサーベイのコース上に 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から 17.9 等の彗星を発見した。10" のコマと 20" の幅広い尾があった。(IAUC 8994, 2008 Oct. 8)
- ☆ P/2008 U1 (McMillan) 10 月 19.20 日 UT、Robert S. McMillan (LPL, 月惑星研究所, Arizona 大学) は、Kitt Peak の Spacewatch 1.8-m f/2.7 反射望遠鏡で得た CCD 画像から 18.9 等の 15" の尾と 5" のコマのある彗星を発見した。(IAUC 8997, 2008 Oct. 21)

その他比較的明るい彗星は、19P/Borrelly、C/2007 U1 (LINEAR)、C/2008 L2 (Hill)、などであった。



(写真 a) C/2006 OF₂ (Broughton) 2008, 10, 02 (写真 b) 29P/Schwassmann-Wachmann 2008, 10, 02
1h 20m-43.5m (JST) exp. 60sx14 TOA130+CCD 1h 50m-2h 00m (JST) exp. 60sx7 TOA130+CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏 三重県伊賀市上野 田中利彦氏